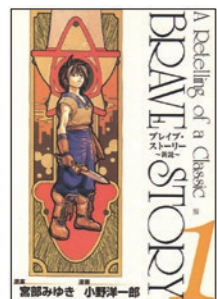


小野洋一郎作品を読むなら
まずは、この3タイトル!



「ブッメン! THE IMAGE MAKER」
(講談社)



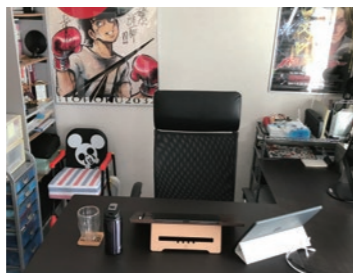
「プレイブ・ストーリー〜新説〜」
(原案・宮部みゆき、新潮社)



「マンガでわかる東大読書」
(原案・西岡孝誠、東洋経済新報社)



おおさき古川秋まつりONLINEのポスター。
今年は開催できなかったさまざまなイベントを
イラスト化。大崎市の四季が詰まった一枚に



自宅のデスクに置かれた小さな椅子は、2歳の
息子の専用席。パパっ子な彼は、小野さんの
仕事で、ご満悦で隣に座っているそう



小野さんは現在、ネームから原稿まで、すべての
作業をiPad Pro一台で行っている。写真は、
新書「マンガでわかる東大読書」のネーム

「巻頭特集」 古川出身の漫画家・小野洋一郎さん 描き続ける熱意と理由

個性あふれるキャラクターを自在に描き、
多彩な作品を生み出す漫画家の小野洋一郎さん。
デジタルへの移行、震災、コロナと
時代ごとにさまざまな色を反映してきた、
小野さんのヒストリーと新たなチャレンジを取材した。

才能を伸ばしてくれたのは 褒め上手な母と先生、同級生

古川第一小学校、古川中学校、古川高等学校と、一通り古川の名が付く学校を卒業。「大学はなかったから、じゃあ漫画家になるかと」。小野洋一郎さんは、故郷愛とユーモアを交えながら話してくれた。

黄金時代といわれる、『週刊少年ジャンプ』の全盛期に生まれ育った世代。小学1年生で『北斗の拳』を模写すると、「同級生たちとうまいと言われて、調子に乗ったんでしょ

ね」。以来、漫画を描くようになったという。子どもは褒められるとうれしくて、長続きするものだ。

小学4年生の夏休み終盤、宿題もやらずに漫画を描く息子に、母はこう口火を切った。「アンタ、夏休みにももしなかったわけではないでしょ。漫画は描いていたのだから、それを先生に提出しなさい」。

始業の日、描きかけの漫画を提出すると、担任の先生は「すごいね。学年末までに完成させてちょうだい」と言った。小4にして、いきなり締め切りに追われた小野さん。その頃

から、本格的なペンとインクを使って描くようになったという。

18歳で『週刊少年ジャンプ』の新人募集企画、天下1漫画賞にて佳作を受賞。受賞作の『クレイジー☆キャット』が『赤マルジャンプ』1998 SPRINGに掲載され、デビュー。大崎市民病院などに勤めながら漫画を描く日々を経て、2001年に『週刊コミックパンチ』で『報復のムフロン』の連載がスタートし、上海。その後、宮部みゆき原案で話題の『プレイブ・ストーリー』新説『』など、多数の作品を描いた。

古川に戻ってきたのは2010年。「家族や気心の知れた友人がいる故郷は、どこにいても実家にいるような安心感があります。地に足がついているなって感じ」。足元が安定していると、手や頭は自由に柔軟になれる。ここが一番、創作に集中できる場所だと、小野さんは話す。

道場では下は7歳、上は50代と、幅広い年代の人が学んでいる。小野さんが自ら教材を作り、漫画のいろはから本質的な考え方まで、惜しみなく伝授。美術の授業で褒められた、作品が受賞したという道場生もいて、学びが自信につながっている。

う光景を目にし、人間の本質的な優しさや強さに感動。地獄の中にも天国を見つけたという。でも、「日常生活が戻るとまた競ったり、喧嘩したりする。皆が思いやりを持っていたあのときを、忘れないでほしい」と、小野さん。どんな状況でも人間の美しさと希望を見出そうとする、小野さんならではの審美眼は、作品にも垣間見える。

デジタル化のおかげで、漫画も場所を選ばず制作できるようになった。便利な反面、どこまでも拡大して作り込めるデジタルの世界は、原稿のサイズ感を見失いやすい。改めて、アナログで身に付けた紙の感覚が漫画制作の礎だと実感する。

さまざまなスキルが必要になる。全体を客観的に見る力が鍛えられる一方、登場人物の立場で主観的に考える力も身に付く。頭の訓練に良い。「世の中にはおかしな情報がいっぱい流れています。惑わされずに、ちゃんと物事を整理できる人間になってほしい」と、小野さんは道場の子どもたちへの思いを語った。

人生いろいろあるけど、無駄な経験は一つもない。漫画家は、些細な日常から、辛く悲しい出来事まで全部、作品のネタにできる。だから、「何があってもめつつけもんだ、よし」と、小野さんは常に前向きだ。毎年開催していた道場生の作品展示会が、今年はコロナ禍で中止に。発表の場が失われるなか、次世代クリエイターの作品を皆に見てもらいたいと、小野さんと西巻さんはWEB展示会を企画。資金集めのため、クラウドファンディングに挑戦中だ。こんなときでも、こんなときだからこそ、小野さんは漫画を描き、漫画の魅力を保ち続けている。



地域貢献と若手育成を目的に、小野さんが直接指導を行うパピルスまんが道場。プロの漫画家の技術に、道場生たちは目を輝かせる

漫画家 小野洋一郎さん

1979年に古川で生まれる。代表作は「ブッメン! THE IMAGE MAKER」(講談社)など。話題作を原案に、独自の観点から漫画化した作品も多数。最新情報はホームページ(<https://ax-4116.jimdofree.com>)をチェック

information

パピルスまんが道場

●学生ビギナーコース(小学生～高校生)
日時/奇数月の第4土曜 14:00～
料金/1,000円(1回45分)、入会費1,000円

●演習コース(全年齢対象)
日時/偶数月の第4土曜 14:00～
料金/2,500円(1回90分)、入会費5,400円

場所は大崎市図書館、大崎市中央公民館など

クラウドファンディングでWEB展示会の支援を募集集中! 12/13(日)まで
<https://camp-fire.jp/projects/view/341749>

お問い合わせは、ニシマキパピルス(TEL0229-22-2655)まで

